

23/3/22 名古屋城天守閣部会  
名古屋市民オンブズマンによるメモ

14:00

荒川主幹：はじめる

上田所長：年度末忙しい中ありがとう  
昨日から名古屋城春祭り 桜本番  
木造天守整備計画 昨年来5回議論  
ほぼ基本計画の全体がそろそろ運び  
熱心な議論 やったここまで  
多くの課題がある  
まだまだ長い道のり 今後ご指導を

荒川：出席者紹介

西形欠席

(文化庁なし)

教育委員会、竹中、安井建築、名古屋城  
議事に入るので、写真、ビデオ撮影はこれまで  
机上配布 1章から印刷した冊子  
8章、図面編を整理した

瀬口：資料1, 2

長くなるようなら適当に分けて進めて

荒川：前回8章半分とりまとめた

一通りご意見頂戴したことになる

資料2の説明 1-10

8-11 スロープで

8-13 地下1階から1階まで

それ以上は検討 市民意見を伺ったうえで

1階 目立つことはないように

8-16 スロープの詳細

8-1 前回から追加 基礎構造の検討例

この中から選択ではなく例

竹中：8-3 遮煙区画 垂直昇降機を加えた

防災・避難計画 平面図 地下1階、1階に垂直昇降機を追加

8-6 小天守と本丸御殿の間に放水銃

8-7 設備計画の概要 (ウ) 空調換気設備 小天守地下1階監視室につける

8-8~10 防災設備設備配管

8-9 水槽、キュービクル

8-10 電気関係

荒川：8-17 維持保全

運営体制 各階4名

8-19 材料の特性 修繕サイクル表

8-20 公開活用 町人文化も

8-22 観覧ルート

竹中：復元計画について 図面編

1-1~1-3

1-4~1-7 適用除外の代替措置

1-8

1-9~1-30 建築図

基礎構造は今後修正が発生する

1-31~1-83

1-84 仮設計画図 素屋根

栈橋

内堀保護工

14:25

瀬口：追加分についてご意見ご質問は

三浦：確認したい

8-2 例であって案ではないのか

荒井：例で挙げた

8-1 一番最初に書いた 解体後穴蔵石垣の調査結果を踏まえて、

穴蔵、基礎構造をどうするかを考えたい

このなかから選ぶものではない

解体後あらためて検討する

三浦：例であると確認した

例3つあげたが、1月10日 調整会議で配布された図  
あと1つ（竹中案）出されていた  
削除された理由を教えて

荒井：竹中技術提案 基礎構造 跳ね出し基礎 比較ができるように挙げた  
名古屋市が「いったん見直す」と議会で説明した  
例の中にはあげなかった  
解体後検討したい  
これを含めてあらためて調査結果を踏まえてゼロスタートで

三浦：納得することにする  
例3つ 普通の常識では、「検討例を整理した」3つしか例がない  
大きな誤解を招く気がする  
基礎構造の例を整理した  
→調査をしていない限定前提での例 と提案したい

荒井：調査は局所的  
全面的な調査行われていない 加えたい

川地：8-11、12 スロープ 強烈についている  
はじめて絵が出てきた  
基礎構造と同じで例なのか、案なのか  
愛知県、名古屋市「ひとにやさしいまちづくり条例」スロープが必要  
人的な対応で十分可能ではないか 勝手に思っている  
今後検討の余地があるのか  
確認したい

荒川：スロープで計画したい  
細かなところは変更が生じる可能性も

瀬口：8-12 スロープの図 小天守に行くにはスロープの下をくぐるのか？

荒川：くぐる

瀬口：景観上はりっぱとは言えない  
景観にこだわっている名古屋市としては、どうか  
現天守にはエレベーターがついているが、景観上は不評

同じようなことになりやしないか  
屋内より勾配が緩やか  
昇降機を使うとか 工夫がいるのでは  
鉄骨か？木材か？  
鉄骨は冷たい  
文化財は木造が多い

荒川：スロープは高さがあるので鉄骨  
小天守の階段から北側に飛び出す  
階段の幅を傷める  
階段の北に振って小天守に

瀬口：景観上よくないというのが感想

川地：避難計画から考えると、大天守地階  
クランク 避難計画 1.4 m  
階段を使っただけの避難 考えなくていい  
少しでもスロープを付けないといけないのなら、  
小天守階段の上にもってきて、スロープの下をくぐるできないようにできないか

荒川：階段 通常の観覧時  
並んでいただく場所 半分をスロープでつぶすより、  
階段の北に振っている

瀬口：ほかには  
8-19 修理サイクル 日常的維持管理 たたき  
敷瓦を入れている すり減る

竹中：鉛の敷瓦 通常作らないので余分を作る  
スロープの上を歩行  
鉛線の上を歩くことはない

瀬口：ほかによければ 説明は以上か

川地：全部説明いただいたということか  
ページを言われた

荒川：説明した

川地：仮設計画

仮設材 予想をはるかに超えるボリューム  
内堀の軽量盛り土を含めて解体時の仮設、新設素屋根  
内堀の軽量盛り土 EPS 発泡スチロール材  
再利用材 リースだと思うが、発泡スチロール材  
リサイクルをどうするのか  
現天守解体 相当な解体材が出る  
SDGs 表明している名古屋市として、仮設材の処理  
そういったボリューム

荒川：発生材は再生利用

内堀発泡スチロール 再生は難しいのではないかと竹中から聞いている  
今後計画を練りたい

川地：建設リサイクル法

SDGs 未来都市を標榜する名古屋市  
解体材 リサイクルという観点から具体的にどう考えているのか

三浦：お答えいただく必要はないが、

8-19 補修 外壁・揚げ裏 80 年後  
だいたい 20 年くらいしかもたない  
姫路城 近代工法でやっと 60 年  
実際建てる時、伝統工法？ 姫路城のように近代工法？  
今回の資料は修正する必要はない

荒川：引き続き検討したい

瀬口：ほかはないか

前回までの赤字一部修正  
8-2 基礎構造は少し検討して  
ほぼ修正がない  
一応所長が言ったように全体を通して基本計画としてまとめた  
全体整備検討会議に報告してよいか  
議題終了

14:47

荒川：修正したうえで全体に資料提出

今後検討

ありがとう

14:48